枯枝より本種を羽化させたので報告する。

1♀，埼玉県秩父郡大滝村三峰山，(材採集)〜2. VI. 1978 (羽化脱出，埼玉県所沢市自宅)

三峰山へハイキングに行った際に，路上に落ちていた枯枝の樹皮下に食痕があるのを見つけ，直径3cm位の部分を持ち帰ったもので，他にはゴマフカミキリが1頭羽化した。

(〒359 所沢市狭山ヶ丘1-3002-11)

コバルトヒゲナガコバネカミキリの羽化例について

豊島亮司・加藤泰久

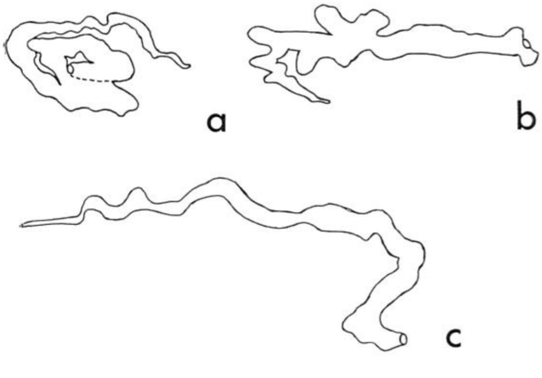
コバルトヒゲナガコバネカミキリ *Molorchus* (*Linomius*) *cobaltinus* HAYASHI は奄美大島の特産種であり，4月上旬頃にシイの花上から稀に得られているだけで，その生態については筆者らの知る限りではまったく報告を聞かない。

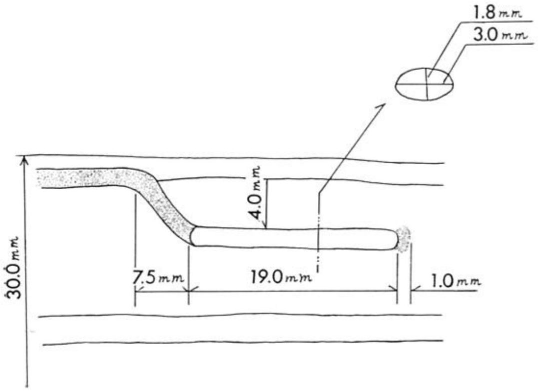
筆者らは，1978年7月に奄美大島を訪れた際に採集した枯枝から本種を下記の通り羽化させたので報告する。

採集場所：奄美大島湯湾岳付近

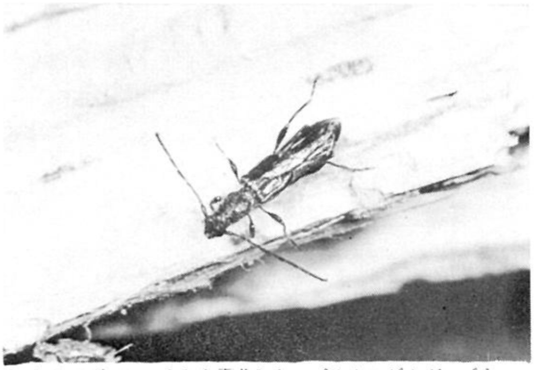
枯枝採集日：1978年7月12日

羽化脱出日：1979年2月23日〜3月14日 (15 exs.)









カラスザンショウから羽化したコバルトヒゲナガコバネカミキリ

Host: カラスザンショウ *Zanthoxylum ailanthoides* SIEB. et ZUCC.

採集者：豊島亮司・加藤泰久

幼虫はカラスザンショウ立枯れの枝(直径20〜50mm)の樹皮下を図1 a〜cのように食した後，辺材部（細枝の場合は芯材まで食い入り蛹室を作り，反転し侵入口を向いて蛹化した）に蛹室を作る。

今回は，幼虫および蛹の良好な標本が得られなかったのでこれらの記載は省略するが，幼虫・蛹共に後日改めて記載発表する予定である。

末筆ながら，発表にあたり多大なご協力並びに写真撮影をして下さった湯沢宣久氏に厚くお礼申し上げる。

(豊島：〒462 名古屋市北区下飯田町4-11)
(加藤：〒461 名古屋市東区大曽根町101)

岩手県早池峰山麓のカミキリ2種

武智　昭一

筆者は本年（1978年）の6月と7月に早池峰山麓にて採集を行ない，興味深い2種のカミキリを採集したので報告しておく。

1. ヒゲナガアメイロカミキリ

Obrium longicorne BATES

1 ex., 岩手県下閉伊郡川井村葛部沢, 24. Ⅵ. 1978

午前10時頃, 林道に面した非常に日当りのよいゴトウヅルより採集した。約10分ほど前に他の人が花をすくったあとで, 筆者がゴトウヅルの下部の葉および花をすくったところネットインしたものである。葉と花のいずれにいたものかは不明。

2. ヒゲシロハナカミキリ（褐色型）
Japanostrangalia dentatipennis (Pic)

1 ex., 岩手県下閉伊郡川井村吉部沢, 23. Ⅶ. 1978



午前9時頃, 林道より下手にあるあまり目立たないノリウツギ花上より採集した。上翅が赤褐色であり, 足および腹面は正常型に比べやや色がうすい。触角の白色部は第9, 10節のみでなく第8節の末端にまで及んでいる。このような褐色型は, 九州では九重山で20個体に1頭の割合で採集されると聞いており（松田勝毅氏談), また, 近畿地方でも採集されていると聞いている（田尾美野留氏談）が関東地方以北では知られていないようである。

なお, 当地はカミキリの種類数がかなり多いようで, 6月には, ヤツボシ・ニセヤツボシ・カンボウトラ・キンケトラ・コトラ・モモブトハナが多く, 7月には, オオアオ・アオ・セアカハナなどが採集されている。

最後に種々御教示いただいた藤田宏氏にお礼申しあげる。

（〒190-01 東京都西多摩郡日の出町2196-484）

クロツヤヒゲナガコバネカミキリの栃木県における記録

平山　洋人

クロツヤヒゲナガコバネカミキリ *Molorchus hattorii* Ohbayashi は, 関東地方においては現在まで原産地川崎市登戸の他は群馬県下2ヶ所から記録された*) のみであり, 他府県では青森・山形・福島・新潟・長野・静岡・岐阜・京都より報告および未発表採集例があるが, いずれの地においてもその個体数は非常に少ないようである。筆者は下記のごとく栃木県下において本種を採集しているので, 同県初記録種として報告しておく。

1♀, 栃木県塩谷郡塩原町入勝橋付近, 6. V. 1979



カエデ花上より採集した。

採集地は, 温泉郷で有名な塩原の渓谷へ入る谷沿いの道が, 平野部から山間部へ入ってすぐの所で, 周辺はアカマツ, センノキ, マンサク, コナラなどの多い環境であった。当地に限らず, 過去に本種の得られた地点を詳しく調べてみると, 平野や山間の盆地と低中山地の境目付近での記録が多いようである。

*)村田元彦（1979）: 月刊むし100号, p.43

（〒336 埼玉県浦和市大字文蔵1, 148-23）

編　集　後　記

今年はとんでもなく忙しく, とうとう No. 1 が11月に出るという事態になってしまいました。原稿は No. 2 の分ももう揃っているので合併号にしようかとも考えたのですが, 印刷の時間がないこと（総会の日にも間に合わなくなってしまいますので）と今後もズルズルと合併号を出す習慣がつくことを恐れ, 分冊にして発行することにいたしました。No. 2 および "さやばね" の方も年内には出したいと思っています。

前々からこの欄でお願いしていたことなのですが, 私も学生ではなくなって時間的な余裕がまるでなくなってきたため, もう以前のように年に3冊の本を定期的に出していくことが相当キツくなっています。年に1冊でもけっこうですので, どなたか編集をうけもって下さる方はいらっしゃいませんでしょうか。　　（藤田　宏）

ELYTRA　Vol. 7, No. 1

昭和54年11月10日　印刷
昭和54年11月18日　発行
編集者　藤　田　　宏
発行者　草　間　慶　一
発行所　日本鞘翅目学会
Japanese Society of Coleopterology
東京都台東区東上野4-26-8
福田惣一方（〒 110）
c/o, Fukuda, 4-26-8, Higashi-Ueno, Taitō-ku, Tōkyō Japan
印　刷　㈱大和印刷